

# *Market Flash*

**イーロン・マスク**  
～天才的救世主か破壊者か！？～

2025.03



日本アルプス電子株式会社  
NIHON ALPS ELECTRONICS CO.,LTD.



## ～イーロン・マスクは何者か？～

イーロン・マスクとはどんな男だろうか！？

ビジネスの世界においては、そのスピード・スケールの大きさ、実行力、先見性に卓越した人物だ。

スペースXを立ち上げ何度も失敗したものの、今ではNASAに代わってスペースXのスペースシャトルで宇宙飛行士を宇宙ステーションにまで運んでいる。

電気自動車がまだ大量生産されていなかった時代にEV世界を見込んでテスラを一時世界のEV企業に育てた。それもどの自動車メーカーにも頼らずに自らがエンジニアと開発して大量生産を実現したのである。

3月と4月のレポートでは、このイーロン・マスクという人物に焦点を当てて、彼の生い立ち、生き様、経営手法をまとめてみた。その上で、今アメリカという国でトランプ大統領と何をしようとしているのか？なぜ政治の世界に首を突っ込んでいったのか？トランプ大統領就任からの動きを追ってみた。

### 1. イーロン・マスクの生い立ちと人間形成

彼の生い立ちとそれがどのように人間形成に影響を与えたのかをまとめてみた

#### 1. 幼少期・教育時代 (1971～1995年)

- 生年月日：1971年6月28日
- 出身地：南アフリカ共和国・プレトリア

家族：

- 父：エロール・マスク (エンジニア)
- 母：メイ・マスク (モデル、栄養士)
- 弟：キンバル・マスク (起業家)
- 妹：トスカ・マスク (映画監督)

#### 1980年 (8歳)：両親の離婚

- 両親が離婚し、父の元で暮らす。のちに「父との関係は最悪だった」と語る。

#### 1981年 (9歳)：プログラミングを独学

- 独学でBASICを学び、コンピューターの知識を深める。

#### 1983年 (12歳)：最初のプログラム「Blastar」を販売

- スペースシューティングゲーム「Blastar」を作成し、地元の雑誌に約500ドルで販売。

### 1. 幼少期の孤独と読書

出来事

- 南アフリカでの幼少期 (1971年生まれ)：マスクは、エンジニアの父とモデルの母のもと、南アフリカのプレトリアで育ち、非常に内向的な性格であり、子供の頃から一人で本を読むことを好んだ。
- 9歳で百科事典『ブリタニカ』を読破し、サイエンス・フィクションや技術書に没頭した
- 10歳でプログラミングを独学し、12歳で「Blastar」というゲームを作って販売

#### <人間形成への影響>

➡ 論理的思考力と「**第一原理思考**」の基盤

- 幼い頃から「本質を理解すること」にこだわり、**物事を根本から考える習慣**がついた
- これが後の「第一原理思考」(First Principles Thinking)に発展し、常識を疑い、ゼロから考える経営手法につながった

例：EVはコストが高すぎて普及しないという業界の「常識」に疑問を持ち、Teslaを成功させた



## ～イーロン・マスクは何者か？～

### 2. いじめられた経験

#### 出来事

- 南アフリカの学校で激しいいじめを受ける（特にプレトリア・ボーイズ・ハイスクール時代）
- ある日、階段から突き落とされて意識を失い、顔面を骨折。数日間入院した
- 「強くならなければ生き残れない」と考えるようになった

#### <人間形成への影響>

##### ➔ 逆境への耐性とハードワークの原点

- 幼少期のいじめ経験により、「絶対に負けない」という強い意志が生まれた。
- どんな困難も乗り越えるべき試練と捉え、過酷な労働環境でも耐えられるようになった。

例：Teslaの資金難やSpaceXの失敗にも屈せず、粘り強く挑戦し続ける姿勢。

### 3. 両親との関係

#### 出来事

- 両親はマスクが8歳のときに離婚し、父親に引き取られた。
- 父親（エロール・マスク）は非常に知的だが暴力的な性格で、家庭内での支配的な態度にマスクは悩まされた。
- 後にマスクは父親との関係を完全に断絶し、「彼は本当に恐ろしい人間だった」と語っている。

#### <人間形成への影響>

##### ➔ 自己主張と独立心

- 父親との関係を断ち切ることで、「自分の人生は自分で切り開くべきだ」という強い独立心を持つようになった。
- これが後に、他人の意見に左右されず、自分の信じる道を突き進む経営スタイルにつながった。

例：業界の批判を受けながらも、TeslaやSpaceXの事業を独自のスタイルで推進。



## ～イーロン・マスクは何者か？～

### 1989年（17歳）：カナダへ移住

- 南アフリカの軍隊（徴兵制）を拒否し、単身カナダへ移住。
- クイーンズ大学（オンタリオ州）に入学。

### 1992年（21歳）：アメリカへ移住

- 奨学金を獲得し、ペンシルベニア大学（UPenn）に編入。

物理学（理学士）

経済学（経営学士）

- 物理学者としての思考（第一原理思考）を学ぶ。

### 1995年（24歳）：スタンフォード大学に進学も2日で中退

- スタンフォード大学の応用物理学の博士課程に入学。
- しかし、インターネットの可能性に魅了され、わずか2日で中退。
- そのまま起業の道へ進む。

## 4. カナダ・アメリカへの移住

出来事

- 17歳で南アフリカを出て、単身カナダへ移住（1989年）。
- アパートの床で寝る生活をしながら大学へ通う。
- 学費を稼ぐために工事現場で働き、深夜清掃の仕事もこなした。
- その後、奨学金を得てペンシルバニア大学に編入。

### <人間形成への影響>

#### ➔ リスクを取る姿勢と起業家精神

- 何も持たずに新しい環境に飛び込み、ゼロから生活を築いた経験が、「リスクを恐れずに挑戦する精神」を形成。
- 成功するには努力と適応力が必要であることを学び、後の起業家精神につながった。

例：PayPal、Tesla、SpaceXをゼロから立ち上げる勇気と行動力。

## 2. 起業家としてのスタート（1995～2002年）

### 1995年（24歳）：Zip2を創業

- Zip2（オンライン地図・ビジネス情報サービス）を弟キンバルと創業。
- 1999年にCompaqに3億700万ドルで売却。
- マスクの取り分：約2,200万ドル。

### 1999年（28歳）：X.com（オンライン銀行）を創業

- オンライン決済サービス「X.com」を設立。
- 2000年にConfinityと合併し、PayPalに改名。
- 2001年、マスクはCEOを解任されるが、最大株主として影響力を持ち続ける。

2002年（31歳）：PayPalを15億ドルでeBayに売却。マスクの取り分：約1億8,000万ドル。



## ～イーロン・マスクは何者か？～

### 5. PayPal時代の起業経験

#### 出来事

- 1995年：スタンフォード大学の博士課程に入学するも2日で中退し、起業を決意。
- 最初の会社Zip2を立ち上げ、最終的に3億ドルで売却（1999年）。
- その後、PayPal（元X.com）を創業し、オンライン決済の革新を推進。
- 2002年にPayPalを15億ドルでeBayに売却。

#### <人間形成への影響>

#### ➔ スピード重視の経営手法

- PayPalでは、「最速で開発・市場投入し、試しながら改善する」という手法を学んだ。
- これが後のSpaceXやTeslaの「とにかく早く作り、改善を繰り返す」というアジャイル開発スタイルにつながる。

イーロン・マスクの起業家になるまでの生い立ちは、「常識を疑い、迅速に行動し、失敗を恐れない」という彼の今のスタイル形成に大きな影響を与えた。いじめ、父親との関係、移住の苦労、起業経験など、困難な状況を乗り越える中で、強靱なメンタルと独自の経営手法を確立した。

その結果、マスクは「他人の意見に左右されず、最速で行動し、試行錯誤を繰り返す」という独自のスタイルを持つ経営者となり、TeslaやSpaceXを成功に導いたといえるだろう。

### 3. 宇宙・EV・AIへの挑戦（2002～2020年）

#### 2002年（31歳）：SpaceXを創業

- 「人類を火星に移住させる」というビジョンのもと、宇宙企業「SpaceX（スペース・エクスプロレーション・テクノロジーズ）」を設立。
- 2008年にNASAと12億ドルの契約を獲得。
- 2015年、Falcon 9ロケットの垂直着陸に成功。

#### 2004年（33歳）：Teslaに出資&後にCEOに

- 当初は共同創業者の1人として参加。
- 2008年、資金難のTeslaでCEOに就任し、改革を断行。
- 2017年、Tesla Model 3を大量生産し、EV市場を拡大。

#### 2006年（35歳）：SolarCityを共同設立

- 再生可能エネルギー企業SolarCityを支援（2016年にTeslaが買収）。

#### 2015年（44歳）：OpenAIを共同設立

- AI技術の開発と普及を目的に、非営利団体OpenAIを設立（後に離脱）。

#### 2016年（45歳）：Neuralink & The Boring Companyを創業

- Neuralink：脳とコンピューターを接続する技術を開発。
- The Boring Company：交通渋滞を解決するための地下トンネル掘削企業。

#### 2020年（49歳）：世界長者番付で1位に

- Tesla株の急上昇により、世界一の富豪（推定資産2,000億ドル超）となる。



## ～イーロン・マスクは何者か？～

### 4. Twitter買収と最新の動向（2021年～現在）

2021年（50歳）：仮想通貨・株価操作で注目

- Dogecoin（ドージコイン）を推奨し、一時価格を急騰させる。
- Teslaがビットコイン決済を一時導入（のちに中止）。

2022年（51歳）：Twitterを買収

- 440億ドルでTwitter（現X）を買収。
- 買収後、経営陣を解雇し、従業員の半数以上を解雇。
- Twitter Blue（有料認証）など新ビジネスモデルを導入。

2023年（52歳）：Twitterを「X」に改名

- Twitterのブランドを「X」に変更し、総合プラットフォーム化を推進。

2024年（52歳）：トランプ氏との関係強化

- トランプ氏の再選キャンペーンを支持。
- 政府効率化プロジェクト（DOGE）に関与。

年代	出来事	影響
1995年	Zip2創業 → 売却	最初の成功で資金獲得
1999年	X.com（後のPayPal）創業	オンライン決済の未来を創る
2002年	SpaceX創業	民間宇宙開発の革命
2004年	Tesla出資 → CEO就任	EV業界を変革
2016年	Neuralink, The Boring Company設立	AI・トンネル事業に進出
2022年	Twitter買収 → Xに改名	ソーシャルメディア改革
2024年	トランプ支持・政府関与	政治にも影響力を持つ



## 2. イーロン・マスクの経営手法

### (1) 大胆なビジョンと長期的視点

特徴：マスク氏は、短期的な利益よりも長期的な目標を重視し、実現不可能と思われるような大きなビジョンを掲げる。その発言はまるでSF小説の中のものであるが、本人はいたって真剣に現実可能なものという信念を持っている。

<具体例>

#### ➤ 「地球を救うためにテスラを作った」

テスラの目的は単なる自動車販売ではなく、「**持続可能なエネルギー社会の実現**」であると公言。短期的な利益を犠牲にしてでも、電気自動車（EV）の普及を推進した。

例：2014年、EV市場の成長を加速させるためにテスラの特許を無償開放。競争相手に技術を提供するという決断は、短期的にはリスクだが、長期的にはEV市場の成長につながると考えた。

#### ➤ 「人類を火星に移住させる」

スペースXの目的は、「**地球外で人類が生存できる社会を作ること**」。単なるロケット開発ではなく、長期的な人類存続のための計画を立てている。

例：2016年の国際宇宙会議で「マルチプラネタリースペース（複数の惑星に住む種族）になるべきだ」と発言し、火星移住計画を発表。

### (2) ハードワークと徹底した現場主義

特徴：マスク氏は異常なまでのハードワークを自ら実践し、社員にも高いレベルを要求する。また、経営者として現場に深く関わり、実際にエンジニアリングや設計に携わる。

彼の頭の中には「パワハラ」という言葉はないようである。できないのであればやめてもらって構わないというのが根底にある、自分についてこれるものだけが残ればよいと思っているようだ。

<具体例>

#### ➤ 「週80時間労働は普通」

「成功したいなら週に80～100時間働くべきだ。これができれば、他の人が1年かけることを数カ月で達成できる」と発言。

例：2018年、テスラの「モデル3」の生産遅延時には、工場の床で寝泊まりしながら指揮を執り、組立ラインの改善に直接関与。

#### ➤ 現場主義のエピソード

2021年、スペースXのスターシップ開発において、試験機SN8の爆発後、マスク自身が深夜の製造現場に赴き、技術者と直接問題を議論し、改善策を指示。

テスラでも工場に頻繁に訪れ、設計変更を即座に決定。実際にネジの締め方まで指導することもある。



## ～イーロン・マスクの経営手法～

### (3) リスクを恐れない実験的アプローチ

特徴：彼は失敗を恐れず、大胆な実験を繰り返しながら学習し、改善を続ける。もちろんこれは資金的バックアップがあるからできることでもある。

<具体例>

#### ➤ 「失敗は選択肢の一つではない。必然だ」

例：スペースXのファルコン1は最初の3回の打ち上げに失敗。資金が尽きる寸前だったが、4回目の成功によってNASAからの契約を獲得し、会社の存続を確保。

彼は「もし失敗していないなら、十分に革新的ではない」と述べ、挑戦を続けることの重要性を強調。

#### ➤ スターシップのテスト

2020年から2023年にかけて、巨大ロケット「スターシップ」の試験機が何度も爆発。だが、マスクは「爆発はデータ収集の一部だ」とし、改良を重ねて成功に近づけている。

### (4) 高速な意思決定とフラットな組織

特徴：スピードを重視し、従来の企業が取る慎重なアプローチを嫌う。組織をフラットにし、無駄な会議や官僚的プロセスを排除。

<具体例>

#### ➤ 「会議は時間の無駄」

例：テスラでは「不要な会議には出るな。会議が無意味になったらその場で退出していい」というルール導入

#### ➤ Twitter (現X) の人員削減

2022年にTwitterを買収後、即座に経営陣を解雇し、数千人の従業員を削減。「スピード感を重視し、組織の意思決定を迅速にするため」と説明。

例：彼はエンジニアを直接管理し、「最も貢献度の高い社員が意思決定すべきだ」と主張。

### (5) 強烈なマーケティングとパーソナルブランディング

広告費をほとんど使わず、自らの発言やSNSを駆使して話題を作る。マーケティング戦略として自分自身をブランド化しているのである。この点はトランプ大統領と酷似している。

<具体例>

#### ➤ Twitterの活用

例：テスラは広告費をほぼゼロにしているが、マスクのツイート一つで株価や製品の売上が大きく動く。

2018年には「テスラを1株420ドルで非公開化する」とツイートし、株価が急騰（後に証券取引委員会に訴えられた）。

#### ➤ 「サイバートラック」の話題作り

2019年、テスラの電動ピックアップトラック「サイバートラック」の発表イベントで、「防弾ガラスが割れない」と言った直後に実際にガラスが割れるハプニング。

普通なら大失敗だが、マスクは「これは改善すべき点だ」とツイートし、結果的に話題性を最大化し、数十万台の予約を獲得した。



## ～イーロン・マスクの経営手法～

イーロン・マスクの経営手法で特に注目されるのがそのスピードである。強引とも思える行動もそのスピードを重視したが故の行動なのである。その反面、彼の行動や言動にはリスクも含む。

次は、イーロン・マスクのスピード経営についていくつかの例を挙げる。さらに、彼の言動や行動がもたらした多くの物議についても触れておく。

### 3. イーロン・マスクのスピード経営

#### (1) SpaceXのロケット開発（「失敗を前提とした高速試験」）

事例：Starship開発（2020年～現在）

マスクはSpaceXのStarship開発において、NASAや従来の航空宇宙企業とは異なる「爆発を恐れない」開発手法を採用した。

<スピード重視のやり方>

#### ▶ 試作機を素早く製造

通常の宇宙開発では、1機の試作機を完成させるのに数年かかるが、SpaceXは数か月ごとに試作機を組み立てた。

#### ▶ すぐにテストし、失敗を許容

2020～2021年にかけて、SN1～SN11（Starshipのプロトタイプ）を次々に打ち上げ、爆発を繰り返した。NASAのように「1回のテストで成功を目指す」従来の手法とは異なり、「失敗から学ぶことで次の改良を加速させる」アプローチを採用。

#### ▶ フィードバックを即座に活用

各テストの結果をリアルタイムで分析し、設計を変更。

開発期間を数年単位から数か月単位に短縮。

その結果、2023年にはStarshipの軌道飛行に成功。

➡ NASAの開発手法に比べて圧倒的なスピード感を持ち、試行錯誤を重ねることで技術革新を加速させた。

#### (2) Teslaの車両生産（「生産ラインを先に作る」）

事例：Tesla Model 3の量産（2017～2018年）

Model 3はTeslaにとって最も重要な車種であり、大量生産の成功が企業の存続を決めるものでした。

<スピード重視のやり方>

#### ▶ 完璧な設計を待たずに工場を建設

通常、自動車メーカーは設計完了 → 生産ライン設計 → 工場建設という流れを取る。

しかしTeslaは、設計が完全に固まる前にギガファクトリー（電池・車両生産工場）を建設し始めた。

#### ▶ 自動化の限界を超えて実験

「生産の自動化」を最大限に進めようとし、ロボットによる組立工程を増やした。

しかし、過剰な自動化によるトラブルが発生し、手作業のラインを追加。

#### ▶ 即時修正・改善

「テント工場」と呼ばれる一時的な組立ラインを設置し、迅速に生産を拡大。

通常自動車メーカーが3年かける量産体制の確立を、1年以内で達成。

➡ スピード重視の結果、一時的な問題が発生したものの、最終的に生産量を急増させ、Teslaの成長を支えた



## ～イーロン・マスクの経営手法～

### (3) Twitter (現X) の改革 (「すぐに変更・即テスト」)

事例：Twitter買収後の改革 (2022年)

2022年10月、マスクはTwitterを買収し、大規模な組織改革を実施しました。

<スピード重視のやり方>

#### ➤ 買収直後に即決定

買収完了直後の48時間以内にCEOを含む経営陣を解任。

全従業員の50%以上を即解雇し、組織をスリム化。

#### ➤ 「動くものはすぐにリリース」

「最初に作って、後から修正」の方針で、新機能 (青バッジの有料化、ポストの長文化、広告収益分配など) を即座に展開。

例：有料バッジ制度 (Twitter Blue) は1週間以内で実装&リリース。

#### ➤ 市場の反応を見て即改善

Twitter Blueの初期バージョンでは、偽アカウント問題が発生。

すぐに認証システムを改良し、対応策を導入。

➡ 企業の買収・改革に通常数年かかるところを、数週間～数か月で実施。スピード優先のため、一時的な混乱も発生したが、最終的にコスト削減と新機能追加が迅速に進んだ。

### (4) Neuralinkの開発 (「動物実験を急ぎ、人間に適用」)

事例：脳インプラントのヒト試験 (2023～2024年)

Neuralinkは、脳とコンピューターを直接つなぐデバイスを開発する企業で、マスクはこの技術の商用化を急いでいます。

<スピード重視のやり方>

#### ➤ 最小限の動物実験でヒト試験へ移行

通常の医療機器は、長期間の動物実験と規制審査を経て、ヒト試験に移行する。

Neuralinkは、動物実験を早期に完了し、2024年にヒトへの埋め込み試験を開始。

#### ➤ 規制機関との交渉を並行して進める

FDA (米国食品医薬品局) の承認を待つのではなく、試験データを先に提出しながら交渉を進める。

その結果、2023年にヒト試験が承認されるまでのプロセスを大幅に短縮。

#### ➤ 臨床試験のデータをリアルタイムで改良

Neuralinkの最初の埋め込み試験は2024年に行われ、データをリアルタイムで解析し、次のバージョンの開発を同時進行。

➡ 通常の医療機器開発よりも圧倒的なスピードで進行し、規制の壁を乗り越えるために迅速な交渉と開発の並行作業を行った。



## ～イーロン・マスクのリスク～

### 4. イーロン・マスクのリスク

#### (1) 高リスクな意思決定による財務リスク

マスクは大きなビジョンを掲げて事業を推進するが、これは資金繰りの問題を引き起こす可能性がある。彼の企業はしばしば巨額の資金調達を必要とし、成功すれば莫大なリターンを得られるが、失敗すれば企業が危機に陥る可能性がある。

#### 事例：Teslaの経営危機（2018年）

Teslaは2018年にモデル3の生産遅延が発生し、資金繰りが悪化。当時、マスクは「数週間以内に破綻する可能性があった」と振り返っている。最終的に大量生産に成功し、企業は成長したが、失敗していれば破産の可能性もあった。

➡ リスクの影響：資金調達が難航すると企業の存続自体が危ぶまれる。

#### (2) 組織の不安定性（従業員の大量解雇・高離職率）

マスクは生産性向上のために従業員を厳しく管理し、パフォーマンスが低いと判断した従業員をすぐに解雇する傾向がある。これは短期的には効率化につながるが、優秀な人材の流出や社内の士気低下を招くリスクがある。

#### 事例：Twitter（現X）の大量解雇（2022年）

マスクがTwitterを買収後、従業員の約50%を解雇し、残った従業員には「ハードコアな働き方」を求めた。その結果、多くのエンジニアが自主的に退職し、一時的にシステム運営が不安定になる事態が発生した。

➡ リスクの影響：優秀な人材の流出により、組織の持続可能性が低下する

#### (3) スピード重視による品質・安全性リスク

マスクは「とにかく素早く開発し、市場に出してから改善する」というスタンスを取る。しかし、この手法は製品の品質や安全性に悪影響を与えることがある。

#### 事例：Teslaのオートパイロットの安全性問題

Teslaのオートパイロット（自動運転機能）は急速に開発・導入されたが、安全性に関する問題が指摘されている。特に自動運転中の事故が複数回発生し、米国の規制当局（NHTSA）が調査を開始した。

➡ リスクの影響：品質問題が発生すると、訴訟リスクやブランドイメージの低下を招く。

#### (4) 市場の過大評価と株価リスク

マスクのカリスマ性とビジョンは投資家に大きな期待を持たせるが、それが企業の実力以上の市場評価を生むことがある。過剰に期待された場合、企業の成長が市場の期待に追いつかないと株価が急落するリスクがある

#### 事例：Teslaの株価変動（2021年～2023年）

Teslaの株価は2021年に最高値を記録したが、その後、金利上昇や市場の期待の調整により大きく下落した。特にマスクがTwitterを買収した際、多くの投資家が「マスクがTeslaに集中できなくなる」と懸念し、Teslaの株価が下落。

➡ リスクの影響：投資家の信頼を損なうと、企業価値が大幅に低下する可能性がある。



## ～イーロン・マスクのリスク～

### (5) 政治・規制リスク

マスクはしばしば政府や規制当局と対立することがあり、それが企業経営に影響を与える可能性がある。特に、宇宙開発 (SpaceX) やEV産業 (Tesla) など、規制の影響を受けやすい分野で事業を展開しているため、政府の対応次第でビジネスが制約される可能性がある。

#### 事例：Teslaと中国政府の関係

Teslaは中国にギガファクトリーを設立し、大きな成功を取めた。しかし、中国政府はEV産業の国内企業を優遇する政策を進めており、Teslaの将来に影響を与える可能性がある。また、米中関係が悪化すれば、Teslaの中国事業が制限されるリスクもある。

➡ リスクの影響：政府の政策変更により、事業展開が制約される可能性がある。

この政治・規制リスクはイーロン・マスクも十分に認識しており、それが彼を政治に向かわせた大きな要因であったのではないだろうか？つまり、自ら政治の世界に入り込みこれらの規制リスクを取り除こうとしているのではないだろうか！？

## 5. イーロン・マスクが招いた物議

### (1) 「Funding secured (資金確保済み)」事件 (2018年)

#### <発言・行動>

2018年8月、マスクは自身のTwitter (現X) で「テスラを1株420ドルで非公開化することを検討している。資金は確保済み。」とツイート。これにより、テスラの株価が急騰。

#### <影響>

#### ➤ 証券取引委員会 (SEC) からの訴訟

実際には「資金確保済み」は事実ではなく、SEC (米証券取引委員会) により「市場をミスリードした」として起訴され、和解の一環で、2000万ドルの罰金とテスラ会長職の辞任を余儀なくされる。

#### ➤ 株価の乱高下と投資家への影響

投資家はツイートを信じて株を買ったが、その後、買収計画が白紙となり株価が急落、多くの投資家が損失を被る。

### (2) 「リモートワークは禁止」強制出社命令 (2022年)

#### <発言・行動>

2022年6月、テスラの従業員に対し、「リモートワークは禁止。最低でも週40時間はオフィスで働け。それが無理なら会社を辞めろ。」というメールを送付。

#### <影響>

#### ➤ 従業員の大量退職

コロナ禍以降、柔軟な働き方が浸透していた中で、この命令に不満を持った多くの社員が退職。

#### ➤ 企業文化の変化

テスラの「自由な働き方」から、「超ハードワーク重視の文化」へシフト。

#### ➤ X (旧Twitter) でも同様の方針

2022年にTwitterを買収した際も「全員オフィス勤務、出社しない者はクビ」と発言し、従業員の大規模な離職を招いた。



## ～イーロン・マスクのリスク～

### (3) Twitter (現X) 買収後の「コードレビュー」事件 (2022年)

<発言・行動>

2022年10月、Twitterを買収した直後、エンジニアに「コードレビュー（自分が書いたプログラムコード）を提出しろ」と要求。数日以内に「貢献度が低いと判断したエンジニアを大量解雇」。

<影響>

➤ **エンジニアの大量解雇**

Twitterの技術チームの大半が解雇され、サーバー管理やアルゴリズムの修正能力が低下。

➤ **サービスの安定性が低下**：その後、Twitterでは複数のシステム障害やバグが頻発。

### (4) サイバートラックの「防弾ガラス割れ」事件 (2019年)

<発言・行動>

2019年、テスラの電動トラック「サイバートラック」発表会で、マスクは「このガラスは絶対に割れない」と発言。しかし、実際に金属球を投げてデモンストレーションを行ったところ、ガラスが割れるという大失態

<影響>

➤ **大きな話題を呼び、逆に注目を集める**

失敗の瞬間はSNSで拡散され、広範囲で報道される。逆に「これはマーケティング戦略だったのでは？」と考える人も多く、発表直後に数十万台の予約が入る。

➤ **企業の信頼性への疑問**：「品質管理が不十分では？」と疑問も生まれ、投資家や消費者の不安材料となる

### (5) 「AIは人類の存亡の危機をもたらす」発言 (2014年～現在)

<発言・行動>

2014年：「AIは悪魔を召喚するようなものだ」と発言し、人工知能の危険性を警告。

2023年：「AI開発を6カ月間停止すべきだ」という公開書簡に署名。

<影響>

➤ **AI規制の議論を活性化**：政府や企業がAIの倫理的問題を真剣に考えるきっかけを作った。

➤ **矛盾する行動**：一方で、自らもAI企業「xAI」を設立し、AIを開発しているため、「結局、自分もAIを利用しているのでは？」と批判される。

### (6) スペースXの「爆発も成功の一部」発言 (2020年～)

<発言・行動>

スペースXの試作ロケット「スターシップ」がテスト打ち上げのたびに爆発。

マスクは「爆発はデータを得るための貴重な経験。すべて計画の一部だ。」と発言。

<影響>

➤ **宇宙開発の新たなアプローチ**：失敗を恐れず、短期間で改良を重ねる「アジャイル開発」スタイルを確立

➤ **NASAや投資家の不安**

NASAや一部の投資家からは、「こんなに失敗ばかりして大丈夫なのか？」と懸念の声も上がる。

このように優れた経営者であると同時に激しい彼の言動や行動が多く物議をもたらしているのも事実である。そうした彼が今年トランプ大統領就任と同時に政治の世界に足を踏み入れた。そして、自分の国（会社）と同様の発言行動をはじめ、アメリカという国全体を揺れ動かしつつある。来月レポートでは、なぜ彼は政治の世界に足を踏み入れたのか？なぜトランプ支持に転換したのか？

そして、何をやろうとしているのか？をまとめてみたい。